

第二 製 造 部

1. 魚皮揉軟試験

趣 旨

戦時下代用皮革ノ需要大ナルヲ極メ之カ揉軟方法ハ全国各地ニ於テ研究サレ殆ンド完成ヲ見ルニ至レルモ本縣下ニ於テ出漁スル遠洋漁船ニヨリ捕獲サレル鮫ハ相當數ニ上リ其ノ殆ンドハ魚肉ノミヲ利用シ魚皮ハ廢物トセラレル現況ニ鑑ミ甚ダ遺憾トスル所ナリ、依テ本場ニ於テ之ガ揉軟試験ニ努メ度ク鮫皮ト同時ニうつぼ皮ノ揉軟ニ着手次ノ結果ヲ得タリ。

(1) 鮫 皮

(イ) 原 料

遠洋漁船三福丸ニヨリ捕獲サレタルひらがしら皮ノ鹽漬サレタモノ

(ロ) 水 漬

長期鹽藏ノ爲メ皮ノ硬度強キタメ清水ニ浸漬シ軟化ニ努メルコト五十時間

(ハ) 石 灰 乳 漬

生石灰ヨリ石灰乳ヲ使用シ魚皮ニ含有スル脂肪分ノ抽出ニ努ム浸漬中ハ一日數回攪拌シツ、十二日間浸漬セリ。

(ニ) 裏 漉

皮ニハ未ダ殘肉ヲ附着シアルニ依リ皮厚ヲ揃ヘルト共ニ殘肉ノ除去ニ努ム

(ホ) 石 灰 搥 シ

鶏糞ヲ使用シ漬込前ニ鶏糞液ヲ作り充分醗酵セシメ漉ヲ以テ濾過浸漬スルコト八日間

(ヘ) タ ン ニ ン 漬

タンニン酸40gヲ3.6lノ水ニ溶解シ更ニ20lノ水ニ稀薄シ鮫皮三枚ヲ浸漬一週間

(ト) 脱 鱗

水二斗ニ對シ食鹽三升ヲ溶解更ニ鹽酸一斗度ヲ加ヘ水洗セル鮫皮ヲ投入漬込ニ鱗ノ消失程度ヲ檢シ取揚ゲテ重炭酸曹達溶液(水一斗ニ對シ重曹半斗度)ニ浸漬中和シ水洗後蔭干完了ス。

以上ノ方法ニヨリ試験シ揉軟法トシテハ好結果ヲ修メタルモノト思ハルモ脱鱗ニ於テ完全ナル成績ヲ得ズ尙一層ノ研究ヲ待ツ

(2) う つ ぼ 皮

(イ) 原 料

鹽漬うつぼ皮鹽抜ノ爲メ一晝夜水漬

(ロ) 石 灰 乳 漬

生石灰ヲ以テ製スル石灰乳中ニ八日間浸漬更ニ一夜壓搾ヲ加フ。

(ハ) 石 灰 乳 搥 シ

鶏糞ヲ水ニ溶解シ充分醗酵セル液中ニ浸漬スルコト一時間更ニ一夜水漬セリ

(ニ) 裏 漉

皮内面 = 附着セル脂肪層除去スル目的ヲ以テ庖丁 = ヨリ剝り取り同時 = 石灰分ノ完全除去 = 努ム。

(ホ) タンニン酸漬込

タンニン酸液比重ポメー 0.8 度 = 浸漬毎日少量ノタンニン酸ヲ追加徐々 = 比重ヲ上げ六日間浸漬取揚ゲ時比重ポメー 1.1 度ナリ。

(ヘ) 乾 燥

清水 = テ可嚙 = 洗滌後蔭乾 = ヨリ板張り乾燥ヲ行ヒ完了セリ。

以上ノ方法 = ヨリ柔軟セル革ヲ利用シチナミ = 巾着 = 作りタル處甚ダ良好 = シテ好成績ヲ修メタリ。

2. 雑魚粉末利用試験

趣 旨

縣下 = 多量魚獲サレル雑魚ハ從來其ノ大部分ヲ養鶏飼料或ハ肥料トシテ消費サレテイタルモ戰時下食糧増産ノ急務ナル今日之ヲ此ノママ飼料又肥料トシテ消費サル、事ハ甚ダ遺憾トスル所ナリ。

當雑魚 = ハ相當ナル榮養價ヲ有シ之ヲ利用シ榮養價大且ツ嗜好食品トシテ其ノ用途ヲ革新シ水産食糧増産ノ途ヲ圖ル = 最モ急務ナリ依テ之ガ試験研究 = 着手シ以テ當業者 = 指導シ食糧増産 = 資セントス

(1) 魚 味 噌

(イ) 原 料

縣下打瀬網漁業 = ヨツテ漁獲サレタル底棲雑魚極メテ小形ナルモノ。

(ロ) 原 料 煮 熟

原料入荷直チ = 可嚙 = 洗滌シポメー 3 度ノ稀薄鹽水 69.8° 乃至 100° ノ湯中 = 投入約三分乃至五分間煮熟

(ハ) 乾 燥

本試験中天候 = 恵マレ日干六日間 = テ乾了セリ。

(ニ) 粉 碎

奈良式粉碎機スクリン經 0.5 ミリヲ以テ細粉トセリ。

(ホ) 調 味 混 練

調味料配合割合

魚	粉	25	匁	味	噌	100	匁
砂	糖	40	匁	味	淋	1	匁
澱	粉	3	匁	氷		1	合

以上ノ割合ヲ以テ先ツ水ヲ沸騰サン砂糖ヲ投入溶解シ魚粉ヲ投入次 = 味噌ヲ混ぜ約一時間煮熟適當ノ硬度 = 混練シ煮上げ直前 = 澱粉溶液ヲ徐々 = 混合味噌ノ飴狀トナルヲ附與シ更 = 味淋ヲ投入混合シ製了セリ。

(ト) 歩留關係 (魚粉末マデ)

原 料	27×600匁	
煮 熟 乾 燥	5×300匁	21 %
粉 末	4×000匁	14.5%

(チ) 生 産 費

	數 量	單 價	金 額	摘 要
原 料	28×000	115	3220	
味 噌	2×00	80	1680	八丁味噌
砂 糖	40斤	26	1040	黄 双
石 炭	40k	32	1280	
味 淋	1.3升	32	416	
人 夫	8人	200	1600	
計			9226	

製品歩留 37貫500匁

一貫單價 2圓46錢強

本製品ハ試ニ名古屋市松坂屋ニ於テ試販セン處極メテ好成績ヲ修メタリ、製品ハ非常ニ榮養價ニ富ミ經濟關係ニ於テモ有利デアリ大量的ニ生産スルナラバ尙一層安價ニテ製シ得ルモノト思ハル。

(2) 調 味 魚 粉

(イ) 雜魚細粉マデハ前記魚味噌ト同様方法ニヨル

(ロ) 調 味

調味液配合割合

醬 油 8 合 氷 糖 蜜 7 合
水 1 升

以上ノ割合ヲ以テ製スル調味液ヲ魚粉一貫ニ對シ二升七合ノ液ヲ使用シー且煮熟シ後熱力ヲ弱メ攪拌調味シツ、釜中ニ於テ乾燥セリ。

(ハ) 粉 碎

調味乾燥セルモノハ粒大種々ナルヲ以テ更ニ粉碎機ニヨリ細粉トナシ製了セリ。

(ニ) 歩 留 關 係

原 料	65×400匁	
粉 末	12×360匁	19%
調 味 後	17×000匁	26%

(ホ) 生 産 費

品 名	數 量	單 價	金 額	生産數量	一貫當リ 生産費
原 料	65×400匁	150	10095		

醬油	10.3升	60	618		
糖蜜	9升	80	720		
鹽	6升	10	60		
燃料	石炭200k	400	800		
	薪 40把	30	1200		
人夫	10人	150	1500		
計			14993	17,000	8.82

製了結果ハ原料ノ比較的高價ト燃料費ノ多大トニヨリ單價高價ノ結果ヲ見タルモ原料購入時期一箇月後ニ至リ約半値ニナリタルヲ以テ此ノ時期ニ於テ製スレバ收支經濟ハ相當ノ成績ヲ修メ得ルモノト確信スルモノナリ。

第三 養 殖 部

1. 小 鮎 移 殖 事 業

昭和16年度小鮎移殖ノ概要次ノ如シ

- (1) 移殖ノ期間 自昭和16年3月13日至6月17日
- (2) 移殖總數 1,650,000尾
- | | | | | | | |
|----|----|----------|---|------|---|------------|
| 内譯 | 縣 | 303,000尾 | } | 河水放流 | 計 | 1,243,000尾 |
| | 水試 | 176,000尾 | | | | |
| | 組合 | 769,000尾 | | | | |
| | 水試 | 40,000尾 | } | 池中養殖 | 計 | 402,000尾 |
| | 組合 | 362,000尾 | | | | |
- (3) 河水放流内譯

水 系 別	河 川 別	尾 數
矢 作 川 水 系	矢 豐 段 巴 河 宮 觀 名	298.000
	作 富 戶	30.000
	川 村 川	43.000
	川 村 川	90.000
	村 村 川	30.000
	村 村 川	30.000
	川 村 川	18.000
	計	102.000
豐 川 水 系	寒 三 大 豐	238.000
	狹 輪 川	36.000
	川 瀧 上	51.000
	計	14.000
天 龍 川 水 系	本 東 大 西 郷 入 菌 町 目 川	162.000
		18.000
	計	16.000
庄 内 川 水 系	庄 内 川	18.000
木 曾 川 水 系	木 曾 川	54.000
合 計		

2. 鱒 増 殖 事 業

縣下山間地ニ於ケル湧水、溪水等ノ利用ニヨル冷水魚養殖ノ一ツトシテ虹鱒養殖ノ奨励ノ目的ニヨリ
左ノ如ク各縣ヨリ發眼卵ヲ購入シ縣下養魚池ノ内適當ト認ムル池ヲ指定シ夫々委託ス

鱒卵購入先 委託者氏名	栃木縣	岐阜縣	青森縣	岩手縣	合 計
加 藤 義 太 郎		萬 7.0	萬 3.5	萬 0.5	萬 11.0
渡 邊 壽 一	萬 4.0		2.3		6.3
原 田 誓	5.0				5.0

伊藤正秋	3.0	3.0			6.0
鈴木良一	3.0		1.0		4.0
牧野真一			1.6		1.6
本田一男			1.6		1.6
合計	15.0	10.0	10.0	0.5	35.5

3. 公魚移植試験

縣下溜池利用奨励ノ目的ヲ以テ公魚卵ヲ夫々人工孵化放養セリ。

放養月日	放養池	面積	放養數	採卵地	育成成績
昭和17年3月7日	油淵	75町歩	360万粒	霞浦	良
" "	入鹿池	150	120	"	良
" "	鵜戸川、平瀬川	10	120	"	不良
" "	上舟養魚場	10	120	"	良
" 3月10日	黒田ダム		120	入鹿池	不良
" "	芦ヶ池	50	120	"	不良

4. 鮑増殖試験

昭和6年以來引續キ移殖放養セル結果灣内ニ於ケル鮑ノ生産ハ漸次増加シツ、アリ、本年度モ引續キ知多郡日間嶋村鼠嶋ニ放養セリ。

要約

種苗採捕	昭和17年1月14日	岩手縣
種苗出荷	全	1月20日午前8時 大槌驛
種苗到着	全	1月21日午後6時 三河三谷驛
放養	全	1月23時午後1時 知多郡日間賀嶋村鼠嶋
放養迄ノ歩減	總數500個	20貫 斃死99個 1975%
種苗ノ大キサ平均	殼長 10.40cm	殼巾 7.12cm 殼高 2.07cm 重量 1.72g
備考	ガラス板標識ヲ付ス	

5. 蜆増殖試験

縣下沿岸各地ニハ夫々天然蜆ヲ生産スルモ猶積極的ニ養殖可能ノ面積尠大ニシテ之ガ指導奨励ヲ行ヒ何レモ好成績ヲ擧ゲ食糧増産ニ裨益セリ。

放養月日	試験地	底質	面積	放養石數	種苗殼長(平均値)	採苗地
昭和16年5月22日	三谷町乃木山下	砂9分 泥1分	5万坪	30石	2.1cm	前芝村西濱
" "	小鈴ヶ谷村大谷	砂		10	1.7	六條潟

" "	大塚村 西大塚	砂	1	10	2.1	前芝村西濱
" "	野 間 村	砂	1	10	1.7	六 條 湯
" "	西浦村 西浦港	砂 礫	0.5	5.8	1.7	"
" "	大濱町 玉ノ浦		0.2	20	1.7	"
" 11月6日	三谷町 乃木山下	砂 9分 泥 1分	5	10	1.62	六條湯三號
" "	田原町 地先			20	1.62	"
" "	吉田町 梶島		1	10	1.62	"
" 11月20日	三谷町 大島	砂 礫	1	10	1.62	"

6. 垂下式養蠣試験 (浮籠代用試験)

ドラム籠不足ノタノ垂下用筏浮籠ニ代ルベキモノトシテ酒樽瀬戸焼浮槽、木槽ガ使用サレテキルガ、本年度ハ新シク直径約一尺(内径9寸)ノ硝子玉ヲ夫々12個繩網ニ1列ニ並ベテ押入シタルモノヲ2列2段ニ木枠(長サ15尺、縦横2.5尺)ニ詰込ミ此ノ2組(硝子玉總計96個)ヲ筏(巾三間横二間)ノ左右ニ夫々ドラム籠ノ代リニ取付ケタノデアル、ソノ結果ハ實入期即チ10月頃ニハドラム籠六個ニ稍劣ル程度ナレド取揚迄ハ使用シ得ル、1ヶ年経過シテ木枠ヲ少々修理スルノミデ他ハ全部次年度モ引續キ使用可能デアル。

此ノ期間ニ於ケル牡蠣成長度下ノ如シ。(場所三谷港内)

月 日	垂下日數	測定數	殻高平均値	成長比率	殻長平均値	成長比率
4月5日(放養)	0	100ヶ	2.09cu	100	1.43	100
5月12日	38	50	3.25	156	2.44	163
6月16日	73	50	5.13	245	3.70	252
7月14日	101	50	6.13	293	4.36	298
8月20日	138	60	7.03	336	4.65	324
9月26日	174	50	7.93	380	4.74	357
10月31日	208	50	8.71	416	5.65	408
12月26日	233	100	11.93	570	6.11	430

7. 藻貝移殖試験 (下之一色養殖出張所)

前年度ヨリ繼續實施セル藻貝委託試験成績次ノ始シ但詳細事項ハ14年度業報報告ニ登載シタルヲ以テ省略ス。

(1) 試験場所及移殖月日

知多郡龜崎町寺山地先、300米沖合

昭和15年3月14日移殖

昭和16年11月30日試験終了

成長度 (50個測定)

測定月日	殻長	殻高	殻巾	一個重量	一升ノ粒數
16. 5. 29	3.61cm	3.02cm	2.51	17.6	88
16. 8. 21	3.92	3.32	2.76	20.1	76
17. 4. 22	4.028	3.51	2.848	30.5	65

(2) 試験場所及移殖月日

知多郡乙川町東億田新田地先40米沖合

昭和15年3月12日移殖

昭和16年11月30日試験終了

成長度次ノ如シ

測定月日	殻長	殻高	殻巾	一個重量	一升ノ粒數
16. 5. 12	2.79cm	2.51cm	2.12cm	7.9g	145
16. 8. 30	3.04	2.7	2.4	12.8	114
17. 4. 30	4.14	3.54	3.0	15.5	98

(3) 試験場所及移殖月日

半田市成岩岩尾新田地先

昭和15年3月20日移殖

昭和16年11月30日試験終了

成長度次ノ如シ

測定月日	殻長	殻高	殻巾	一個重量	一升ノ粒數
16. 5. 13	2.88cm	2.47cm	2.14cm	10.3g	144
16. 8. 8	3.5	2.9	2.5	14.8	108

8. 海産稚鮎採捕蓄養試験

戦近海産稚鮎ノ移殖事業盛トナリ各地ニ於テ其ノ利用成績大ナルモノアリ。

本縣ニ有リテハ目下之レガ試験途上ニアリ、前年度ニ引續キ調査研究中ナレドモ採捕適所調査並漁具ノ改良ニ因リ將來縣下需要種鮎ノ配給事業化ヲ期待セルモノニシテ本年度試験經過次ノ如シ

1. 漁場

渥美郡福江町同泉村地先ハ本縣海産稚鮎ノ主産地ニシテ二月上旬既ニ來襲アリ、水温上昇ト共ニ3月乃至4月ハ盛漁期トナル。

本場ニ於テハ前年度ニ引續キ之ガ採捕ヲ行ヒタルモ漁獲方法不慣ト盛漁期ニ於ケル季節風ニ災イセラレ其ノ成績見ル可キモノ無カリシガ從來福江町立馬地先漁場ニ於テハ終日作業ニ依リ2.3萬尾(平均体長7.6糎体重3.5瓦)ノ捕獲ハ容易トサレ又同秋葉下漁場ニハ早期ヨリ末期ニ至ル迄所謂白ベタ(平均体長6.7糎体重2瓦)ト稱スルモノ多數發見セラレ一網ニ2.3萬尾ノ漁獲アルモ魚体殊ニ弱ク大半ハ蓄養中ニ斃死ス

本縣ノ如キ蓄年需要數量累進スル現在ニ於テハ頭上ノ惡條件ヲ克服シ沖合漁場ノ發見ト相俟ツテ沖取式ニ轉換スルガ目下ノ急務ナラン。

本年度漁期ト天候狀態

事項	3月1日 31日	4月1日 20日	計
晴天	19日	10日	
曇天	7日	7日	
雨天	5日	3日	
計	31日	20日	51日
平穩(網持可能日數)	9日	7日	16日
風並雨天(網持不可能日數)	22日	13日	35日

2、漁具及漁船

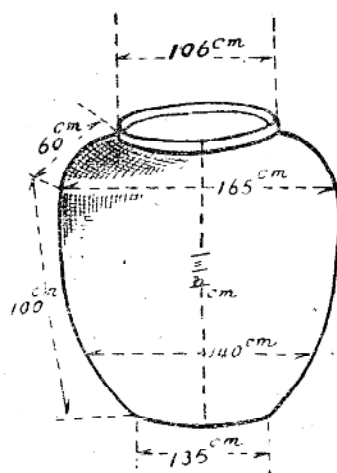
前年度ニ引續キ改良地曳網(片袖80尋13尋立チ)一統ヲ使用ス。

作業船ハ網船肩巾4.5尺無動力ノモノ二隻及曳船用肩巾4尺動力付ノモノ一隻ヲ用イタリ、沖合漁場作業困難ナリシ爲之ヲ中止セリ將來漁具漁船ノ改良ニ依リ沖捕式ニ轉換ト相俟ツテ漁場探策ノ急ヲ告グルモノ切ナリ。

3、副漁具

捕獲稚鮎ノ收容ハ地曳網ノ魚捕部ヨリ直チニ生簀ニ自然ト泳込マシメ作業中ニ於ケル摺傷ヲ稚體ニ生ゼシメザル様極力意ヲ用イタリ。

生簀ハ竹製籠ニシテ口徑106糎肩巾165糎高サ135糎ノ提灯型ニシテ引船ニ依ル移動自在ナリ。



4、漁法

靜謐ナル夕刻又ハ夜間或ハ日出前後潮ノ出端浮上スル魚群ヲ作業船二隻ニ分積セル地曳網ヲ魚捕部ヨリ順次投下シツ、相方ニ別レ魚群ヲ圍繞シ終レバ兩端ノ曳網ニ依リ他方ト相和シテ曳網ス。

尙夜間作業ハ特ニ魚ノ游泳敏速ナラズ燈火ニ集魚センメ徐クニ之ヲ取卷キ前記ノ如ク作業ス、然シテ沿岸一帶淺所ニシテ陸地間近ニ引上グルトキハ魚捕部ニ游泳セル稚魚ノ大部分ハ摺傷ヲ生ジ大半ハ蓄養

中斃死ノ虞レアルヲ以テ沖合深所ニ於テ蓄養籠ニ收容セシム。

5、稚魚ノ運搬

稚体ハ損傷ヲ生ゼザル限リ斃死ヲ防止シ得ルヲ以テ其ノ取扱ハ特ニ注意ヲ要スルモノニシテ蓄養中漁獲當時ノ摺傷ヲ生ゼシモノ及弱体魚ヲ淘汰シ種苗トシテ配給スルモノニシテ輸送ズツク内ニ納ムル迄ノ中間運搬器ノ使用ヲ極力減ゼシメ蓄養籠ノ配給ニ最モ便ナル場所ニ豫メ移動シ擔桶ヲ以テ水槽内ニ移セリ。

亦輸送距離ノ短縮ト業者ノ便ヲ計リ海上輸送ヲ行ヒシ爲海水ノミヲ利用シ輸送水温ヲ8~10度ニ保チ好成绩ヲ得タリ、特ニ海産稚鮎放養ノ取扱ニ淡水琵琶湖産小鮎ト同様ニ考ヘ亂暴ナル取扱ヲ敢テ爲セルガ如キ傾向アリ、將來稚鮎取扱ニ意ヲ注グコトニ依リ良好ノ成果ヲ得セシムルモノト思考セラル。

6、捕獲數量

月 日	網下回数	漁 獲		天 候			水 温	備 考
		尾 數	貫 數	天 氣	風 向	氣 温		
3.22	3回	7.000尾	8.400貫	晴	NE2	14.1	13.5	
3.22	4	6.200	7.440	晴	E2	18.3	12.5	
4.9	8	40.200	23.500	半曇	N2	17.8	13.0	
4.10	1	200	200	半曇	W2	18.8	14.5	
4.12	2	2.200	900	雨曇	E3	14.5	13.0	
4.13	1	500	400	晴	W4	19.2	14.6	
4.15	4	8.500	6.200	晴	SE1	18.7	13.8	
4.16	3	2.700	1.810	曇雨	E1	18.3	13.8	
計	26	67.590	48.850					

7 籠生養ニ依ル蓄養試験成績表

月 日	採捕地	蓄 養 見込尾數	蓄養場所	斃 死 尾 數			備 考
				1 日 目	2 日 目	3 日 目	
3.22	立馬	2.00尾	秋葉下	28尾	100尾	一尾	
3.23	江比間	6.200	江比間	不明	2.000	—	採捕當時ノ網ズレ多シ
4.10	立馬	200	立馬	—	—	5	
4.12	秋葉下	2.200	秋葉下	1.000	—	—	採捕當時ノ網ズレ多シ
4.13	立馬	500	立馬	不明	5	—	
4.15	立馬	700	立馬	100	—	—	
計		11.800		1.380	2.105	5	

8、稚鮎ノ配給數量

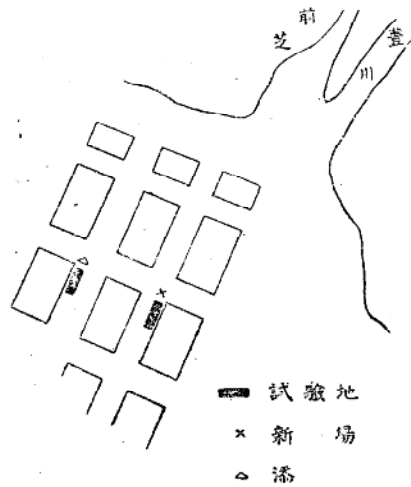
回 數	月 日	配 給 先	配 給 數 量		輸送水温	備 考
			福江産	泉産		
1	3.25	泉村 倉治	700	—	10°~11°C	樽ニテ海上輸送
2	3.25	泉村 倉治	—	720	12	樽ニテリヤカー輸送
3	3.25	豊橋市 一男	860	—	9~10	オート三輪車輸送
4	4.11	豊橋市 一男	2.000	—	9~10	オート三輪車輸送

5	4.12	新城町 渡邊村 泉	縣一	12.700	—	9~10	海上及トラック輸送
6	4.17	村 下	倉治	4.320	—	8.5~9	オート三輪車輸送
計				20.580	720		

9. 海苔網簀附着試験 (附着層決定試験)

一、位 置

寶飯郡前芝町地先(新場及添ノ2ヶ所ニ於テ試験ス)



第一圖 試験漁場位置

一、網簀及取付方法

材 料

- イ、椰子繩(太サ1.5分 此分ハ前年千葉県ヨリ種付網簀ヲ購入セルモノヲ修理)
- ロ、棕梠繩(太サ1.5分)

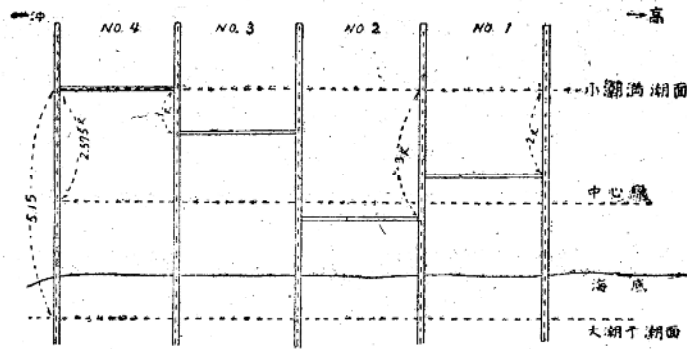
構造及取付方法

網簀ノ構造ハ右ノ材料ヲ以テ1尺目、長サ5間、巾4尺ニ蛙又ニ編ミタルモノニテ兩側ハ2分乃至2分5厘ノマニラ麻ヲ使用シ之ヲ支ヘル杭ハ1間毎ニ末口1.5寸乃至2寸長サ8尺乃至10尺ノ松杭ヲ兩側ニ距離4尺餘ヲ以テ打込ミ之ニ所定ノ高サニ丸竹(長サ5尺、目廻リ3寸)ヲ縛付ケ、コレノ上ニ前記ノ網ヲ敷設シタ(第二、三圖)

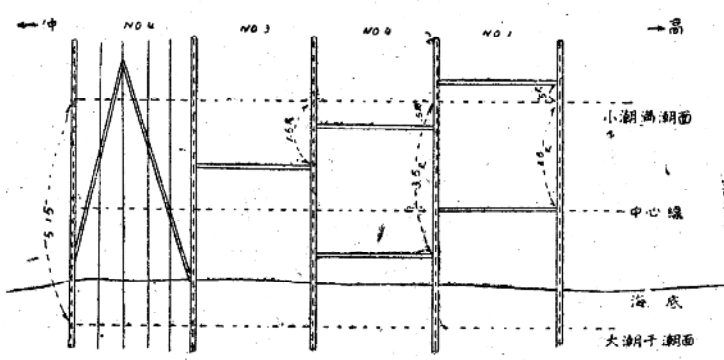
一、中心線ノ決定

水産試験場藤森技師ノ指導ニヨル中心線ヲ標準トスル附着層ノ決定ノ目的ヲ以テ中心線ヲ海苔建込時期タル9月ニ於ケル小潮満潮面及大潮ノ夜間干潮面ヲ夫々觀測シ松杭ヲ標柱トシテ之ニ釘ヲ打付ケテ標準トシタ、即チ小潮満潮時ハ9月13日(舊曆21日)午前10時、夜間大潮干潮時ハ9月24日(舊曆2日)午前2時30分觀測ノ結果ソノ差ハ5尺1寸5分ヲ得タノデアル、即チ中心線ハ小潮満潮、以下2.58尺デアル、

一、網簀設置月日



第二圖 網罟設置ノ高サ (新場)



第三圖 網罟設置ノ高サ (新場)

第一回、9月25日(舊曆4日)午後1時頃ヨリ先記取付方法ノ通り設置シタ

當日ノ午後10時ノ水溫 表層22.5度 下層22.1度
 比重 上層1565 下層1625デア

第二回10月6日(舊曆15日)午前11時頃ヨリ設置ス

當日ノ水溫 上層22.5度 下層23.5度
 比重 上層1365 下層1308

猶建込日前後ノ水溫及比重ノ三河灣觀測地5ヶ所ノ平均ハ次ノ通りデア

月 日	平均水溫	平均比重	月 日	平均水溫	平均比重
9月20日	23.4	1839	10月1日	22.7	1751
21日	23.4	1907	2日	22.8	1502
22日	22.3	2049	3日	22.0	1602
23日	21.3	1979	4日	22.0	1800
24日	22.3	2039	5日	22.7	1925
25日	22.3	1947	6日	22.8	1845
26日	22.3	1827	7日	23.2	1919
27日	22.0	1903	8日	22.0	1987
28日	21.9	1802	9日	19.2	1989
29日	22.1	1998	10日	19.8	1957
30日	22.1	1697			

一、網篋設置ノ高サ

第一回

中心線ヲ標準トシテ上下ニ一定ノ距離毎ニ網ヲ張ルベキヲ便利上、小潮満潮面ヲ標準トシテ張り之ヲ中心線ニ換算スルコトニシタ。

即チ第二圖ノ如ク小潮満潮面（中心線上2.58尺）小潮満潮面下1尺（中心線上1.58尺）全2尺下（中心線上0.58尺）全3尺下（中心線下0.42尺）ノ四種類ヲ設置シタ。

第二回

第三圖ノ如ク小潮満潮面上5寸（中心線上3.08尺）全下5寸（中心線上2.68尺）全下1.5尺（中心線上1.08尺）全下2.5尺（中心線上0.08尺）全下3.5尺（中心線下0.92尺）ノ四種ヲ設置シタ。

一、経過

第一回設置網篋（新場ノモノ）

○小潮満潮面層（中心線上2.58尺）此ノ層ノ網ハ初メヨリ終リ迄、黒海苔、青海苔共ニ發芽体發見セズ。

○小潮満潮面下1尺層（中心線上1.58尺）建込ヨリ三潮後ノ11月11日ニ於テ1尺目1目ノ附着黒海苔數2.3ケデ葉体長ハ約1寸デアツタ之ノ儘順調ニ伸長スレバ相當ニ收穫ヲ豫想セラレタノデアアルガ11月27日ノ豪雨ニヨリ漁場ノ海水ハ殆ンド淡水化シタト全時ニ水温モ最高21度ニ迄上昇シタタノ黒海苔ニ所謂腐レヲ生ジ處々或ル種ノバクテリアニ依ル細胞死ト思ハレル鐵サビ色ノ斑點ヲ現ハシ終ニハ流失スルモノ多ク12月20日、1月19日共附着海苔殆ンドナク2月2日ニハ全ク附着ナシ。

○小潮満潮面下2尺層（中心線上0.58尺）11月11日デハ1目ニ8.9ケ附着葉体ハ1—1.5寸ニ伸長ス11月27日ノ豪雨ニヨル被害ハ黒海苔ノ腐敗甚シク12月2日デハ青海苔8、黒海苔2ノ割合ニテ12月6日青海苔（黒僅カ混入）560匁ヲ摘採シ43枚ヲ抄製シタ、12月20日ニハ更ニ黒海苔ハ腐敗ヲ續ケ減少、殆ンド恢復ノ見込ナキ迄ニ消失シタ1月19日ニハ唯青海苔ノミ附着成育シ、黒海苔ノ見込ハ殆ンド望ミ得ザリシガ2月2日デハ青海苔7、黒海苔3ノ割合ニ附着シ黒海苔ハ4.5寸ニ伸長シタ、此頃ヨリ黒海苔ノ恢復著シク當業者ノ垂直篋ニハ多數附着スル様ニナツタ、併シ之ニ比ベルト此ノ網ノ恢復程度ハ微々タルモノデ摘採スル程度迄ニハ至ラナカツタ。

○小潮満潮面下3尺層（中心線下0.42尺）11月11日ニ於ケル成績ハ最モ良ク1目ニ無數附着シ葉体ノ長サモ3寸ニ及ビ次ノ潮ニハ當然摘採可能ト思ハレタガ11月27日ノ被害ハ黒海苔ノ大部分ヲ腐敗流失センノ青海苔ノミ殘存シ12月6日ニハ黒海苔ノ僅カ混入セルモノ600匁ヲ摘採46枚、抄製シタ12月20日ハ全様黒海苔ハ僅カ附着、青海苔ハ成育ス、併シ摘採ニ至ラズ、然ルニ1月19日ニハ網ノ切斷流失ニヨリ此ノ網ノ試験ヲ中止ス。

以上ノ新場ニ於ケル成績ヲ綜合スルニ孢子附着及初期ニ於ケル海苔ノ伸長ハ3尺層（中心線下0.42尺）最モ良ク遙ニ劣テ2尺層、1尺層ノ順デアアル、小潮満潮面ハ全然附着ナシ。

併シ12月2日ニ至テハ11月27日ノ豪雨及高水温ニヨリ附着黒海苔ノ大部分ハ腐敗流失シ青海苔ノミ殘存ス、併シ2月2日ニ至テ2尺層ニ黒海苔相當恢復シ4.5寸迄ニ伸長スルモノアリタルモ粗朶篋ノ恢復ニ比スレバ極メテ不良デアツタ。

註 本年ハ例年ニ比シ當業者ノ粗朶ノ初期ノ附着層ハ約5寸乃至1尺低イト云ハレテキル。

第二回設置網篋（添ノモノ）

添ニ於ケル網篋ノ成績ハ大略新場ニ等シイ、即チ初期ニ於テハ小潮満潮面下3.5尺層（中心線下0.92尺）ガ最モ良ク2.5尺層之ニ次グ、併シ新場ニ比スレバ何レモ稍劣ル。

11月27日ノ豪雨ノ被害ハ前者全様甚シク、又2月2日ニ於イテ恢復セル状態モ殆シド全一テアル、即チ山形ノ網デハ小潮満潮面下2.5尺—2.8尺ノ範圍ニ黒海苔4.5寸ノモノ少數附着セルヲ見タ。

第一回及第二回ノ比較

建込日ノ水温ハ寧ロ第二回ノ方ガ高イ程デアツタ、附着成績ハ第一回ノ方ガ稍多量デアル。

附着層ハ第一回ハ1尺—3尺層ノ範圍（中心線上1.58尺—全下0.42尺）ソノ中良好層ハ2—3尺層（中心線上0.58尺—全下0.42尺）

第二回ハ1.5尺—3.5尺層範圍（中心線上1.08尺—全下0.92尺）ソノ中良好層ハ2.5尺—3.5尺層（中心線上0.08尺—全下0.92尺）即チ兩者ヲ綜合シテ附着層ハ1尺—3.5尺ノ範圍中心線上1.58尺—全下0.92尺）良好層ハ2尺—3.5尺ノ範圍（中心線上0.58尺—全下0.92尺）デアル。

猶椰子網及棕梠網ニヨル材料カラクル成績ノ差ハ見當ラナカツタ、次ニ海苔成育、摘採時期ノ水温及比重ヲ記録スル。

月 日	水 温	比 重
11. 25	15.8	1915
12. 5	13.0	2050
" 15	8.4	1310
" 25	10.5	2058
1. 5	6.3	1916
" 15	9.7	1810
" 25	5.5	2307
2. 5	6.8	2001
" 15	3.0	2146
" 26	6.0	1790
3, 5	7.5	2001
" 15	12.8	0（淡水）

前芝海苔漁場ニ於ケル観測

要 約

1、附着層ヲ決定スル目的ヲ以テ定位置ニ網ヲ個定シソノ附着試験ヲ行ツタ。

1、網設置ノ高サハ中心線（小潮満潮面ト夜間大潮干潮面ノ中間）ヲ標準トシタ。

1、胞子ノ附着ハ小潮満潮面下3尺—3.5尺層（中心線下0.42尺—0.92尺）最モ良好デアツタ（但シ本年ハ例年ヨリ約1尺低イト云ハレテキル）

胞子附着範圍ハ小潮満潮面下1尺乃至3尺5寸デ巾ハ2尺5寸デアツタ(中心線上1.58尺—全下0.92尺)

網筈=ヨル海苔成育経過

新場 (建込日 9月25日)

	11月11日	12月2日	12月6日	12月20日	1月19日	2月2日
No1 小潮満潮面下2尺	1目=89ヶ葉 葉体長1-1.5寸	11月27日ノ豪雨及高水温ノタメ腐敗甚シ青8.黒2. 摘採近シ	青摘採(黒僅カ混入)560匁 43枚抄製	腐敗回復ノ見込ナキガ如シ	主トシテ青成長ス	青7.黒3. 黒海苔4.5寸=伸長此頃ヨリ黒ノ回復著シ
No2 全下3尺	1目=無數 葉体長3寸	此ノ網ノ被害最モ甚シク黒海苔大部分流失ス青ノミ残り青ノ摘採可能ナリ	青摘採(黒僅少混入)600匁 46枚	青成長ス黒僅少	網切断流失試験中止	
No3 全下1尺	1目=2.3ヶ葉 葉体長1寸	發育遅シ	摘採ナシ	附着殆ンドナシ	海苔發育殆ンドナシ	附着ナシ
No4 (小潮満潮面)	肉眼=テ發見セズ	附着ヲ認メズ	ナシ	附着ナシ	附着ナシ	

添 (建込日 10月6日)

	11月11日	12月2日	12月6日	12月20日	1月19日	2月2日	
No1	上 網 (小潮満潮面)上5寸	肉眼=テ發見セズ	附着ナシ	何レモ摘採ナシ	附着ナシ	附着ナシ	附着ナシ
	下 網 (全下25尺)	1目=4.50ヶ葉 葉体長2寸	現在迄ハ黒. 青共ニ相當成育セルモ11月27日ノ豪雨ノタメ黒ノミ流失ス快復ノ見込アリ	全上	黒殆ンド附着ナシ	青稍成長ス	青9. 黒1 3.4寸=伸長ス
No2	上 (全下5寸)	肉眼=テ發見セズ	附着ナシ	全上	附着ナシ	附着ナシ	附着ナシ
	下 (全下3.5尺)	1目=多數附着 葉体長2.5寸 但シ新場ノNo2ノ半数立	黒. 青共ニ成育良好ナリシモ雨ノ被害ニヨリ黒流失ス青ハ摘採可能	全上	青ノミ成長ス	網流失ス試験中止	
No3	(全下1.5尺)	1目=5.6ヶ葉 葉体長7.8分	黒僅カ附着	全上	附着ナシ	附着殆ンドナシ	黒殆ンド附着セズ青僅少附着
No4 (山形)	右	小潮満潮面下3尺層ヨリ3.5尺層=多數附着	附着層ハ2.5-3.0尺黒流失、青残ル	全上		附着僅少	小潮満潮面下2.5尺-2.8尺層=黒4.5寸=伸長ス青7. 黒3
	左	上=全ジ	全上	全上		全上	全上

10 地子海苔着生試験 (下之一色養殖出張所)

I、伊勢灣奥部

1、試験ノ目的

前年度ニ引續キテ伊勢灣奥部即チ海部郡及名古屋港附近ノ左記地點ニ於テ地子海苔着生状態ヲ調査